

えべつやきもの市における手づくりピザの実践

On Hand Made Pizza Making Performance in Ebetu Yakimono-ichi
by Students of Hokusho University

水 野 信 太 郎
Shintaro MIZUNO

はじめに

北翔大学生涯学習システム学部健康プランニング学科健康サポートコース住生活・住環境研究室においては、毎年3年生ゼミ生を中心とする学部学生諸君による継続的な活動を試みてきた。それらの内容は、日常生活あるいは都市施設に関わるものであった。これらの活動は北海道浅井学園大学同学部同学科時代から始まって、その後の浅井学園大学同学部同学科時代を経て北翔大学に名称変更した現在に至るまで、休むことなく学外における社会参加の形をとって続けられてきた。

それらの具体的な内容は、

- ① 歴史的な生活用具などを含む博物館資料の整備作業
- ② えべつやきもの市の会場での日本古来のたたら製鉄
- ③ 同じくやきもの市で野幌砂を原料としたガラス製造
- ④ ものづくりフェスタを会場にしてのガラス製造実演
- ⑤ 焼成済みの建築用赤煉瓦を用いた煉瓦アーチ積体験

である。なお当研究室では上記5項目に及ぶゼミナール学生の手による社会活動とは別に、手づくり煉瓦の製造指導と乾焼済煉瓦の野焼き実践にも参画している。

さらに一般社会の人々に向けての実技披露ではないものの、学部3年生自身による木材加工・木製品製造・木工体験なども実施している。以上の多くは、これまでも本学のさまざまな研究紀要において報告を重ねてきている。

本稿においては、焼成された通常の、即ち実物の赤煉瓦を用いてアーチ積を試み、さらに手づくりピザを焼いた記録を記述する。この体験学習は2009年、平成21年7月11日土曜日に開催された「第20回 えべつやきもの市」の会場で実施した。

手づくりピザを焼く体験をした学生たちの思い

それでは本年度の煉瓦アーチ積体験に参加した学生諸君の声を順次、採録しておきたい。その際、体験学生自身がまとめたレポートを、そのまま採用するという基本を守っている。ただ

し筆者の方で手を加えた点があることも明記しておく必要がある。第一に、学生番号は割愛した。この配慮は、学生の氏名と当人の学生番号が揃って学外に知られた場合、個人情報の流出に相当すると見なされる事実に基づく。また標記上のことや文字の変換ミス等は、改めた。たとえば「えべつやきもの市」が正式な表記であるため、本文中に「江別やきもの市」と表現されていた場合には「江別」という漢字は平仮名で標記し直している。

上記のような方針に沿って以下に参加学生の体験記を記載する。参加者は全員が3年次学生である。彼ら5名の掲載順は、五十音順に従う。

えべつやきもの市を終えて

生涯学習システム学部 健康プランニング学科 勘崎 祥平

私は今回、えべつやきもの市に参加させていただきました。やきもの市は今年で20回目で江別では有名な祭りで、とてもにぎわっていました。私たちが今回えべつやきもの市で出しものを出すにあたって、何を出そうかすごく悩みました。れんがを使っての出しものというのが条件だったので、とてもみんなで考えました。

そして答えができました。「れんがで窯作ってピザ作りゃいいじゃん」。横山君の意見に圧倒されました。が、実際に考えたらとても良い案だと思いました。そこでみんなで意見が一致しました。そして、れんがでピザ窯作りをしようということになり、ゼミの授業の時間で、作業が始まりました。

まず、れんがを削る作業から始まりました。れんがを削るとき、まずゴーグルと、マスクをつけ、れんがを削っていきましたが、とてもむずかしく、なかなか上手く削れませんでした。線になぞって削ろうとしても、きれいに削ることは、とても困難でした。そして次は、手作りピザにしようということだったので、実際に学校の調理室で、生地づくりをしました。調理の先生の木下先生にも手伝っていただき、ピザづくりを開始しました。生地を作るのもかなり困難で、発酵させたり、生地を叩いて伸ばしたり、先生に指導を受けながら、やっとの思いで生地を完成させました。

実際に出来上がったピザはとてもおいしくて、これはいけると思いました。そして次に、一番辛かった窯づくりに挑みました。本当に一番辛かった。まず、れんがをモルタルという、セメントに砂と水を混ぜた接着剤につけ、積み重ねていくという作業をしました。その作業は難しく、畠山レンガさん（畠山レンガ施工・筆者注・以下同様）の、畠山さんに手本を見せてもらいました。やはり職人技で、とても見とれてしまいました。最初は上手くいかなかったのが、やっていくうちにみんな慣れていき、作業が進んでいきました。そして、れんがの窯づくりの作業を、朝の7時から始めて、完成したのが午後の4時を回っていました。

完成したあとは、とても達成感がありました。

そしてやきもの市の当日、予想通りピザは大人気でした。ピザを配れなかった人たちもたく

さんいて、本当に申し訳なかったです。

このやきもの市を通して、とても良い経験をさせてもらったと思います。また、機会があれば、参加したいです。

やきもの市レポート

生涯学習システム学部健康プランニング学科 西口 亮介

毎年水野先生とその年のゼミ生が参加しているやきもの市に今年は自分が参加して来ました。去年はれんがのアーチ積をしていて、今年はれんがのピザ窯を作り、そこでピザを焼くこと、それとモルタルを使わないピザ窯のアーチ積に決まりました。この計画が決まってから、多くの作業をしました。

まずアーチ積のれんがの加工をしました。みなさんが御存知の赤いれんがではなく、低い温度で焼かれた白いれんが（耐火煉瓦ではなく、白っぽい色調の焼きが甘い段階の普通煉瓦・筆者注）を台形の形（テーパーと呼ばれる傾斜面をもつ特別な形状・筆者注）に切っていました。しかし簡単に切ることはできず、思った以上に時間がかかってしまいました。

それから本題のピザ窯の作製にとりかかりました。朝7時に畠山レンガさんに集まりました。まず、畠山レンガさんの若いお弟子さんである『拓さん』に教えてもらいながら、モルタルを練ることからとりかかりました。この場合のモルタルとは、砂に耐火セメントと、水を混ぜたものです。次にこのモルタルをれんがに塗りながられんがを積んでいきます。まず社長さんが見本として土台（基礎・筆者注）の角の部分を築いてくれました。その手つきは華麗でした。自分たちがやってみるとうまくモルタルがつかなくなったり、乾燥してモルタルが使えなくなってしまうと、悪戦苦闘しました。取材の方もおみえになっていました。約8時間かけてやっとの思いで、ピザ窯を作り終えました。

そしてピザを作る練習にとりかかりました。大学の調理室を借りて、木下先生、熊谷さん（店長というニックネーム）に手伝っていただきながら、練習をしました。食材は北海道産にこだわり、とてもおいしいものができました。

いよいよ当日、雨は降らずに、曇りの天気でした。朝から交通整理の仕事があったので6時半にコミセンに集合しました。朝からの仕事だったので、とても眠かったですが、しっかり仕事をこなせたと思います。その仕事のあとに、水野先生から町村牧場の牛乳をおごってもらいました。

朝の9時過ぎからピザの準備やのぼりをたてて、10時ぐらいに畠山レンガの社長さんが、おみえになりピザ窯に火をいれていきました。このころには多くのお客さんがやきものテナント（出品者・筆者注）に買い物にきていました。江別に6年住んでいますが一度も来たことがなかったので、人の多さにびっくりしました。ピザ窯の前にも多くの方が見学にきていました。

午後1時過ぎに窯が温まり、いよいよピザを焼き始めました。その瞬間に多くの方がピザ窯



写真一1 基準に水糸を張って窯を積み始める



写真一3 木製楕円形を使いアーチを積み上げる



写真一2 ピザ窯基壇（2段目）を積み上げる



写真一4 アーチ一重目頂部が積み上げられる



写真-5 畠山社長がアーチ二重目下部を積む



写真-7 煉瓦端部の小口にモルタルをのせる



写真-6 櫛型を抜いてアーチの二重目を積む



写真-8 間もなく煉瓦ピザ窯の完成が近づく

近くに並び、とても焦りました。ピザはとてうまく焼け、とてもうれしかったです。自分たちで作ったピザもとてもおいしく焼きあがりました。

アーチ積のほうもうまく成功しました。こちらは見ていてくれた方が少なく多少寂しかったです。

3時過ぎによりやく作業が終了しました。とても疲れました。そのあと少し休んだ後、片付けをして、無事に終了しました。

この体験は多くの時間がかかりとても大変でしたが、やきもの市を盛り上げるという意味では成功だったと思います。とても楽しく、思い出に残る体験ができたと思います。このために協力していただいた皆さんにお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

「えべつやきもの市」20周年

健康プランニング学科 3年D組 三浦 英輝

今回、私達3年生は、「水野ゼミ」が毎年恒例のようにして参加しているという「えべつやきもの市」に初めて参加しました。そこで江別で有名なれんがを使って何か出しものをやろうという事で、ゼミ生で話し合ったところ、ピザを作って江別市民に配ろうという案がでたのです。

そのアイデアにみんな賛成しましたが、ただ単にピザを作っても面白くないという事で、ピザを焼く為のピザ窯もつくろうという事になり、それに向けて準備が始まりました。

ピザ窯を造るにあたって、畠山さんという職人さんに協力してもらいれんがでのピザ窯づくりが始まりました。畠山さんの会社での作業になり、朝、現地に集合したときに、畠山さんが作ったピザ窯サンプルがあったのですが、正直最初はこんな立派なものを、私達はつくれるのだろうかという不安がありました。

作業が始まり、畠山さんの協力もあり少しずつ作業が進んでいきました。職人さんはあんなに簡単に煉瓦にモルタルをのせているのに自分でやってみるとこれがすごく難しく、とても苦戦したのを覚えています。モルタルが生きているみたいでした。

作業は朝早くから始まったのですが、ピザ窯が完成したのはお昼も過ぎて、16時くらいでした。午後くらいになると作業に慣れてきたのか、私達も自分なりに少しモルタル使いがうまくなっていた気がしました。しかし、れんが職人として一人前になるにはどのくらい修行すれば良いのかと、畠山さんに聞くと、「10年だな」と言われて、すごくなめていてすみませんという気持ちと、すごく深い世界だと感じました。

ピザ窯が完成した時は、すごく嬉しかったのを覚えています。

えべつやきもの市当日は、集合時間が早かったため、起きられるかどうかすごく不安でしたが、なんとか遅刻もなくて、先生の喝がとぶことはなくてまず安心しました。

やきもの市は初めてでしたが、朝から活気がすごくて驚きました。午前9時くらいから、ピザづくり作業がはじまり、つくっている最中から江別のおばちゃん方に、「新聞（写真-25参

照)でみたよ、頑張ってるね」だとか「いつ焼き上がるの？」だとか、いろいろ声をかけていただいて、すごく楽しく作業する事ができました。

ピザがやけると、ピザ窯の横には長い列ができていて驚きました。自分達が生地から作ったピザは、衛生上配ることができなかつたのがとても残念でしたが、おばちゃん達からはいろいろな意見をたくさんもらえました。やっぱり一番は「おいしかったよ」と言われるのが嬉しかったです。

祭り(やきもの市)が終わると片付けの作業があり、それもまた楽しい作業でした。片付けはあっという間に終わり、私達はすごく疲れた顔をしていたのに、水野先生はそんな顔をみせないでさわやかな顔をしていたので、この人はすごいなと改めて感じました。

このひとつの事をみんなできめて、やりとげると言う事がすごく久々だったので、えべつやきもの市に参加できて、このゼミに入って正解だったなと思います。

普通に生活していたら、絶対に経験できない事が経験できるので、新鮮でとてもいい経験ができました。後期にも、ものづくりフェスタというイベントがあるので、そちらもまた頑張りたいと思います。いろいろ先生にも怒られましたが、それもまた私達のためだと思います。ありがとうございます。この作業に関係したたくさんの皆様、ありがとうございました。

「やきもの市を終えて」

3年D組 湊 優

私達は、えべつやきもの市でピザ窯をつくり、ピザを焼いて町の人達や観光客にもてなすという計画を立てました。その計画は、とてもいいアイデアと水野先生に褒められました。自分は、ピザ窯づくりは簡単に終わると調子に乗っていたが、世の中はそんなに甘くないと実感しました。まず最初に、れんがを調達しに行くことから始まりました。

米沢煉瓦さんの所に行き、れんがをもらいに行き、アンテナショップの駐車場を借りて作業を始めました。そのれんがを切る作業は、機械を使ってけずるという作業でしたが、自分はとても不器用なので上手くできなくてイライラしていたが、友達に色んなアドバイスをもらってとても上手く出来るようになりました。そして一番大変だったのが、ピザ窯づくりです。

7月3日(金)朝7時に江別市内元野幌にある「畠山レンガ施工」に集合しました。その時、自分と友達は、とても大事な軍手を忘れてしまい先生に怒られました。まず、初めにピザ窯づくりにとっても重要なモルタルづくりから作業が始まりました。モルタルは、セメントと砂と水を混ぜたもので機械を使って十分かき混ぜる作業です。それが終わってピザ窯づくりの開始。

畠山社長にまずお手本を見せてもらって私達5人は作業を開始したが、モルタルを塗りすぎたり、間隔がとてもバラバラでれんがが入らなかつたりなど全然作業が進まなかつたのです。

予想以上に難しく最初の土台(基礎)を作るだけで2~3時間かかってしまいました。自分達は授業があるから昼までに終わらせる予定が、全然ダメです。畠山社長が「今日授業休んで、



写真-11 生地を指でさしてねかせ具合を見る



写真-12 ピザに載せる野菜類を洗ってさざむ



写真-9 強力粉の生地をまな板に叩きつける



写真-10 ピザ生地を空中で回しながら広げる



写真-13 ゆがいたアスパラガスを水にさらす



写真-15 焼きあがったピザを人数分に分ける



写真-14 チーズをたっぷり載せて焼き始める



写真-16 御指導を下さった木下先生と熊谷様

一日でピザ窯を作るぞ」と言ってくれました。だが、自分達はその授業を休みすぎており休めない状況だったのです。そこで水野先生が「自分からも授業担当の先生に言うておく」と言うてくれたので自分達は、その授業を休んでピザ窯づくりに集中することになりました。

それからみんなコツをつかんできて、作業は順調に進んでいきます。畠山社長はとても優しく、指導をしてくれました。そして問題のピザを焼くアーチを作る作業にとりかかりました。とても微調整が難しく、畠山社長の指示で作業が進んでいきました。そして運命のアーチの土台（櫛型・型枠）にしていたものを抜く瞬間が来て、5人は崩れるかもなという気持ちで見守ったのです。けれども、そのアーチは崩れることもなく、みんな一安心しました。それから最終段階に出来てきたピザ窯をたわしでこすったりなどして、煙突の箇所もれんがで積み上げ、ようやくピザ窯づくりが完成したのです。

畠山社長は出来たピザ窯を見て最高、最高と言ってくれて、とても嬉しかったです。確かにところどころバランスが悪かったりはしましたが、5人の努力の結晶だと自分は思いました。そして待ちに待った7月11日「やきもの市」を迎えることになりました。

やきもの市は、いろんな地域の人達が集まり、陶芸やガラスで出来ているものを販売していました。自分はやきもの市という祭りは全く知らなくて、人がいっぱいいてびっくりしました。朝7時から、(出品者の搬入用)車の交通整理を開始しました。私達のところは、一番人が多い場所で、次から次と自動車が増えて少し焦りましたが、5人で力を合わせて無事に終わることが出来ました。

そして、本題のピザを焼く作業にとりかかったのです。事前に準備をしておいたピザの材料を持って、いざ会場へ。NPO(やきもの21)さんから土台(作業テーブル)を借りて、ピザ生地をつくる人と、ピザ窯の火をみる係りに分かれて作業をしました。自分は、ピザ生地を作る作業を任せられました。最初は、手こずったのですが、ちゃんと生地ができ、それを30分くらい発酵させたら本当の完成です。

すると観光客(来場者)の人達がとても興味深く作業を見に来てくれて、私達も美味しいピザを焼いてやろうと気合いが入ったのです。ピザ窯の方は、畠山社長が来てくれて作業は順調に進んでいました。ピザ窯に火を入れたら前日に雨が降っていたので、れんがから水分が出てきましたが、崩れる心配はないと畠山社長が言ってくれたので安心しました。

そしてついにピザをピザ窯で焼く作業にとりかかりました。とてもピザ窯の中は熱く、3分位でピザは簡単に出来ました。ピザは町の人達にとっても人気で、あっという間に行列が出来ました。けれども、一般の人達には、自分達が作ったピザをあげることは出来なく、市販のピザを買って来てそれを焼いてあげました。やはり、(このような対応で)いろんなやじなどを言われましたが、先生に言われたことなので丁寧に断りました。そして、自分達がつくったピザは、(当日、来場した)北翔大学の学生たちや、自分達の周りの人達にあげました。とても美味しいと言われて嬉しかったです。

ピザは全部なくなり俺らの作業は片付けるだけになりました。そしてピザ作りは、大成功に

終わりました。自分がやきもの市を終えてみて感じたことは、いろんな人の出会いがあり、いろんな人の協力があって人間は成立するんだなど改めて肌で感じた1日でした。

水野先生はじめ、米沢さん、畠山社長、NPOの人達の力が無かったら、自分達はこんな経験を一生することが出来なかったので、こんなでかい（公共の場である）やきもの市という場所でこういう機会を与えてくれてありがとうございました。ゼミの後輩にはもっといい経験が出来るよう期待しています。

「やきもの市を終えて」

3年D組 横山 彰

私たちはやきもの市で、自分達でつくったピザ窯で当日にピザを作り、焼くということをするようになった。さらに当日、れんがアーチづくりもすることになった。やきもの市当日を迎える前にピザ窯を作ったりれんがを切ったりと、忙しいスケジュールの中で作業するようになった。

れんがを切る作業をするために、最初に米沢煉瓦にれんがをもらいに行き、その足でアンテナショップに行き、作業を行った。切る作業は、思ったよりも難しく一日で終わる作業ではなかった。結果、れんがを切る作業は、2日間かかった。ピザ窯づくりは、7月3日（金）午前7時に江別市内（西インター近く）にある「畠山レンガ施工」の倉庫に集合して、ピザ窯づくりの作業にとりかかった。「米沢煉瓦」のれんが150個を準備し、畠山レンガ施工の畠山文男社長に指導を受けながら、ピザ窯づくりの作業を進めていった。

朝、友達が軍手を忘れるというトラブルもあり、水野先生は機嫌を損ねていた。まず最初にピザ窯をつくる上で、大切なモルタルづくりを開始した。モルタルというのは、セメントと土（正しくは砂）と水を合わせて、機械でかき混ぜたものである。モルタルづくりが終わったところで、本題のピザ窯づくりにとりかかった。畠山社長が見本を見せてくれて、そこから私たちがピザ窯をつくっていくという流れで作業が進んでいった。さすがは社長だけあってやはりれんがを扱うのはプロだった。社長はモルタルをれんがに上手くのせるのだが、私達は全く上手くないか、やっぱり素人といった感じであった。初めは全然上手くないかかったのが、時間が経つにつれて徐々にれんがにも上手くモルタルがのるようになってきた。煉瓦の土台（基礎）が完成したあたりで、その日の時間に間に合わないというアクシデントが発生した。その日は、午後に私達は授業を控えており午前中でしか出来ないという事で朝の7時に集合したのだったが、私達の作業があまりにも時間がかかりすぎて午前中には終わらない。畠山社長が「お前たち授業休め。今日中に終わらせる。」と言ったおかげなのかは分からないが、先生も「今日は休みなさい。一応、こちらからも口ぞえをする。」とまで言ってくれた。そのおかげでピザ窯は下手ではあるものの、どうにか完成した。

そして、やきもの市当日になった。その日は、朝6時30分に江別市のコミュニティーセンターに集合ということで、私は朝5時30分頃に起きた。コミュニティーセンターに着いて初めにす



写真-17 ふじ工房にてアーチ用「型枠」拝見



写真-19 えべつやきもの市当日朝の生地練り



写真-18 アンテナショップでアーチ予行演習



写真-20 応援に駆けつけてくれた本学学生と



写真-21 電動ふいごを使って窯を吹き上げる



写真-23 やきものの市の参加者にピザを配る列



写真-22 ピザ窯の火の中にピザ生地を入れる



写真-24 終了後、江別市長・三好様と一緒に

る仕事は、交通整備であった。私達は交通整理で一番忙しい仕事場だった。交通整理も先生に怒られながらも何とか終わり、ついにピザ窯に火を入れる時が来た。前の日に雨が降ったせいか、火を焚いている最中にピザ窯から水が出てきたが、なんとかピザ窯が崩れることもなく上手くおえることができた。手作りピザもとてもおいしく出来て大成功だったと私は思う。

まさかこんなに上手くいくとは思わなかったので、思わず顔がニヤついてしまった。こんなに上手くいったのは皆の努力の結晶だと思います。そしてここまで上手くいったのは私達に關ってくださった皆さんのおかげだとも思っています。本当にありがとうございました。

このたびの体験学習より

今回の煉瓦アーチ・ピザ窯積み、ならびに手づくりピザ調理を実際に成し遂げる中で、筆者も多くのことを見、聞き、そして関心も高めながら感じ入った。その思いを記録として句と短歌に認めた。以下に三句と八首の歌としてとどめておきたい。

ゼミ生が アーチ積みする やきもの市

ピザ欲しと 汗かき積みし 穹窿窯

煉瓦前 ふいごも唸る 火の祭

ピザ店に 勤めしことも 何もなし
されど止まれず 焼きたしと云ふ

ピザならば 出来あいの品 あるものを
それも不満と 手づくり探る

書生の 凹凸見えし 手作窯
薪を焼べるに 支障なけれど

雨上がる やきもの市の 朝涼し
生地のす傍ら ピザ焼き上がる

生地こねて 真円ピザ焼きし 壺がま
窯の見映より 味の旨さよ

やきもの^{いち}市^こ 来^{ひと}られし人に ふるまえる
 ピザ^{くぼ}く配^せる背の Tシャツ^{ほほえ}微笑む

雨^{あめ}が止^やむ 区^く切^ぎりの年^{とし}の やきもの^{いち}市
 窯^{かま}から築^{きず}きて 自^じ前^{まえ}ピザ^は食^はむ

仕^し事^{ごと}終^おえ 火^ひ落^おとし窯^{かま}の 傍^{かたわ}らに
 座^ざして集^{つど}える 祭^{まつり}の夕^{ゆう}べ

む す び

以上、記述してきたように本年度のピザ焼用アーチ窯を積む行為では、完全な煉瓦造アーチ構造を構成することに成功した。とりわけ生まれて初めての組積造（そせきぞう）構築の体験学習は、参加した学生全員にとって限りなく大きな収穫となったようである。組積造とは、煉瓦や石材やブロックなどのように固まり状の建築材料を大地の上に、下方から上位へ順に積み上げていくことで構造体を完成するものである。その場合、アーチという構造手法は極めて重要な技術となる。

本年度はそれだけでなくピザを戸外において実際に焼いてみるという体験も実践した。煉瓦を活かしたまちづくりを多年にわたって継続してきた筆者にとっても正直に申して、「窯業（焼き物）」と「食品（たべもの）」そして「やきもの（ピザ）」のコラボレーションは、まさしく初の体験であった。教員自身にとっても有意義な「体験学習」であった。学校教育の場における意義においても、生涯学習としての意味においても、両面での意義深い体験学習であったと明記しておきたい。反省点を踏まえて、次年度以降「アーチ積体験プログラム」の改良に努めていきたいと考えている。以上のような試みを繰り返しながら、地域社会の活性化の一翼を担う生涯学習者を育てることに繋がればと願うしだいである。また仮に生涯学習支援者の養成とは直接の関わりがなくとも、筆者個人としては、地域社会が元気を取り戻して将来の方向を見つけれられるような手助けができればと考えている。

末尾になってしまったが、本稿の内容を実施しまとめるに際して御指導ならびに御力添えを賜った方々に、衷心より感謝の意を表するものである。米澤煉瓦の米澤金蔵会長、同米澤照二社長、同社の城畑部長、畠山レンガ施工の畠山社長ご夫妻、同社の若手職員「拓」様、ふじ工房の藤田佳孝先生、鈴木鉄工所、江別市経済部の大川直久氏、江別市陶芸の森セラミックアートセンター長の石垣秀人氏、同センター職員各位、N43赤煉瓦塾の皆さん、NPO やきもの21の森陵一氏、北海道新聞社江別支局の相川康暁氏ほかに、本紙面をもって謝辞を申し上げる次第である。また本学関係者ではあるが、伊藤義雄先生、小田嶋政子先生、奥寺仁子先生、木下教子先生、熊谷真由美さん、棟方章子さん、今野知幸さん、犬山あかねさんへ心より感謝申し上げます。

焼きたてピザで観光客もてなしたい!

れんが窯造りに 北翔大生が挑戦

【江別】「えべつやきもの市」でピザをどうぞ。北翔大生涯学習システム部の3年生が3日、江別特産のれんがを使ったピザ窯造りに挑戦した。11日に開幕するやきもの市でピザを実際に焼き上げ、観光客にも無料で振舞う趣向だ。
(相川康暁)

11日「やきもの市」で火入れ

同大の水野信太郎教授(53)とそのゼミ生は毎年「やきもの市」でれんがのアーチを制作していたが、やきもの市が今年20回目を迎えるのを記念し、学生がれんがの風合いを生かせるピザ窯造りを発案した。

この日は3年生5人と水野教授が午前7時に、市内元野幌にある「畠山レンガ施工」の倉庫に集合。地元のれんが製造業「米沢煉瓦」のれんが150個を準備し、畠山レンガ施工の畠山文男社長(59)に指導を受けながら作業を進めた。

全員が「初めての体験」という学生たちは接着用のモルタルを塗る「れんがが小手」と呼ばれる道具の扱いに四苦八苦。積んでいる途中にモルタルが乾いたり、れんがを計算通りに積めず、「難しい」という声が何度も漏れた。

何度も失敗を繰り返しながら、予定を大幅に超える約8時間でアーチ型の窯が完成。西口亮介さん(20)は「モルタルの分量は難しかったが、みんなで頑張った結晶です」と胸を

張った。総重量約250kgのピザ窯は10日に会場に搬入。11日正午ごろに火を入れ、ピザ生地を焼く予定だ。



写真-25 ピザ窯記事が掲載された北海道新聞